

令和2年度 福岡県立遠賀高等学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校運営計画 (4月)		評価		
学校運営方針	校訓「自立・勤勉・創造」のもと、地域を愛し、地域に愛され、地域に信頼される校風づくりに努める。志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもち、地域に貢献できる責任感ある人材の育成を目指す。			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		
<p>授業規律の改善に重点を置き、全職員で授業中の巡回に取り組んだことで、授業に落ち着きがでてきた。また、学校行事において、生徒主体で実施することで、意欲的に取り組む生徒が増加するとともに、帰属意識を高めることができた。今後も授業規律の確立や「立ち止まり指導」による個に応じた生徒指導を継続するとともに、合理的配慮を意識した「遠賀スタイル」の授業を発展させることにより、生徒の学ぶ意欲の向上と基礎学力の充実を図り、生徒の進路実現に向けた指導を行いたい。また、部活動の活性化を進めることで、充実した生活が送れる学校というブランドイメージを確立したい。</p>	基礎学力の充実	<ul style="list-style-type: none"> 合理的配慮を意識した「遠賀スタイル」の授業展開による生徒の学ぶ意欲の向上と課題解決能力、自己肯定感の涵養 「検定学習帳」を活用した生徒の学び直し及び基礎学力を充実させる取組 1年次の国語、数学、英語での習熟度少人数指導の導入 「授業サポーター」及び「朝のHR指導」の取組により、生徒が落ち着いて授業に取り組む環境を作る 		
	有為な社会の形成者として必要な規範意識、モラルの育成	<ul style="list-style-type: none"> 「立ち止まり指導」の徹底 5分前行動の徹底 挨拶の励行 整理、整頓、清掃指導 部活動の活性化 全教育活動における人権感覚の育成 生徒会の活性化と生徒が主役の学校行事の積極的推進 		
	生徒の勤労観及び職業観の育成、コミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生、保護者、外部講師などを活用した進路講話 キャリアカウンセリングの充実 インターンシップ、オープンスクールの充実 応募前職場見学の完全実施 面接指導の充実 学科、コースの特色を生かした資格取得の推進 進路支援コーディネーターの活用 		
	特別支援教育、教育相談体制の充実による生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> 全校一斉面談 連続欠席生徒への家庭訪問の完全実施 家庭訪問 (1年生全員) 特別支援教育の積極的推進 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用 		
	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業の推進 ボランティア活動への積極的参加 地域の方々との積極的な交流 幼、小、中、大学生との交流 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	今後の課題
教 務	授業規律の確立、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	授業規律を乱す生徒に対しては速やかに対応し、落ち着いた雰囲気での授業ができるようにする。欠席・遅刻者を出さないための指導を強化し、原級留置者数・中途退学者数合わせて15名以内を目指す。		
	確かな学力の定着を図り、授業改善に努める。	校内検定への取組を通して基礎学力向上に努め、義務制段階の学び直しを進める。「遠賀スタイル」を推進し、課題の発見と解決に向けた主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりを展開する。		
	新学習指導要領実施に向けて、準備を進める。	カリキュラム上の問題点について教科や生徒のニーズを踏まえた上でその見直しや改善に努める。新しい学習状況評価について検討委員会を立ち上げるなど、本校のニーズに応じた評価方法を検討する。		
生徒指導	マナー・モラルの育成など、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	生徒の行動や生活改善を目的とした集会等を実施し、規範意識の向上を図る。生徒の背景などを把握して、生徒理解を深めた指導を実践し、立ち止まり指導の徹底を図る。		
	生徒会活動の活性化に努める。	部活動への積極的な加入を推進し、部活動加入率35%を目指す。各種委員会を定期的に実施し、生徒会役員やリーダーの育成と生徒会活動の活性化を目指す。		
	地域や関係機関との連携を図る。	地域の方からの相談等に即時に対応し、指導方針に理解と協力を得る。地域の指導員や警察等との補導委員会に参加し、情報交換等での連携を図る。		
進路指導	職業観や労働観を養い、3年間を見通したキャリア教育を推進する。	1年「知る・学ぶ」2年「経験する」3年「挑戦する」をテーマに計画を立てる。社会人と連携した「生きたキャリア教育」を推進するため、外部との連携を密にする。		
	進路目標を達成させるための様々な取り組みを行う。	応募前職場見学を推奨し、就職のミスマッチを未然に防ぐ。夏季進路対策や、外部組織を利用したセミナーなどを適宜行う。		
	進路指導における情報の共有化を徹底し、就職未決定者を出さない取り組みを行う。	進路支援コーディネーターと学年団との連携を徹底する。就職内定率100%を目指す。		
第一学年	基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上を図る。	基本的な生活習慣を身につけさせ、各クラス欠席・遅刻ゼロ日を20日以上とする。教え育てる姿勢で生徒自身に思考・判断させ、規範意識の向上を図る。		
	生徒自身を中心に据えた教育活動を推進する。	学び直しを含めた授業の理解を重要と捉え、教育環境の整備を含めて学びの質を向上させる。各教科の授業や学年での取組では生徒が生徒を牽引することに挑戦させ、リーダーシップの育成と思いやりの溢れる学年の雰囲気醸成する。		
	家庭・生徒状況の理解を前提とした信頼関係の構築に努める。	欠席・遅刻を出さないための家庭連絡を密に行い、社会性を身に付けさせる。家庭への連絡、情報交換により、生徒が安全安心に落ち着いた学校生活を送ることが出来るように状況を整える。		
第二学年	規範意識を持った集団行動ができる人間性の育成を図る。	挨拶や時間厳守、校則や社会のルールを守るなどの規範意識を高め、場面に応じた行動を判断できる力を育む。文化祭や修学旅行などの学校行事で積極的なグループ活動や集団行動がとれる態度を育てる。		
	生徒や教師を尊重し合う人間関係を築ける思いやりの心を育む。	自分勝手な言動をなくし、日々の学校生活で思いやりのある行動がとれる心を育む。思いやりのある生徒を育てるため、授業や集会で静かな態度で話を素直に聞ける心を育てる。		
	進路実現のために大切な知識や態度を身に付けさせる。	インターンシップ、オープンキャンパスを積極的に取り組み、真剣に進路実現について考える態度を育てる。進路実現の準備として基礎学力を定着させ、年間で1つ以上の資格の習得をめざす。		
第三学年	社会人として必要な社会性を身に付けさせ、規範意識の育成に努める。	家庭との連絡を密に行い、安易な欠席や遅刻、早退を認めず、社会性を身に付けさせる。日々の遅刻指導を徹底し、1日の欠席3名以内、遅刻5名以内を目指す。		
	授業規律を定着させ、基礎学力の充実を図る。	教室の環境を整え、授業前の机上の準備、授業開始時の机の整頓など授業に集中できる学習環境を整備する。各種資格を3級以上を2種類取得を目指し、資格取得に取り組ませる。		
	希望進路目標について明確にし、その実現を目指す。	地域に貢献できる人材の育成を目指し、集会やHRを効果的に利用して社会性を育成していく。計画的な進路指導を行うことで、保護者と密に連絡を取り、進路実現に向けた保護者の協力を得るようにする。		
	リーダーの育成を図り、下級生への手本となる生徒を育成する。	体育大会などの行事に主体的に取り組ませることによって、3学年としてリーダーシップを発揮させ、思いやりを持って下級生を牽引できる生徒を育てる。		

保 健	健康に関する自己管理の意識向上と健康課題を改善・克服する資質を身に付けさせる。	健康診断に於ける事前事後指導を徹底させ、健康課題に気付かせる。 保健室利用や健康診断受診時の挨拶やマナーを守る態度を育成する。				
	生徒の現状・実態を把握し、全教職員での情報共有に努め、教育相談の充実も図る。	担任・保護者との連携を通し、生徒の実態把握に努め、支援体制を作る。 SC、SSW、訪問相談員を効果的に活用し、組織的な支援を行う。				
	学習環境を整備し、公共物を大切にす公徳心を育成する。	外掃を含めた定期的な清掃計画を立案し、校内美化に努める。 美化委員会の活動を活発化させ、ゴミの分別回収やポイ捨て防止に努める。				
農 場	実験実習の充実を図り、「遠賀スタイル」でのわかる授業の推進に努める。	各担当農場において安全教育を徹底し、実験・実習を効果的に行い、体験学習を通して学習内容の充実を図る。 農場部職員間の連携を密にし、農場の環境整備に努め農業教育の充実を図る。				
	学科生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。	学科の生徒の希望進路を把握し、学年との連携で適切な進路指導を行う。 教科指導において適切な職業観を育成し、3年間を通したキャリア教育を実践する。				
	地域や各関係機関との連携を図り、学校活性化に努める。	学校行事や生産物等の販売を通して地域との交流活動を実施する。 地域関係機関との連携や地域イベントへの参加などにより学科のPRを行う。				
人権教育	人権尊重の視点に立った、授業の取組の推進	人権課題（「いじめ問題」を含む）についての学習を充実させ、職員・生徒の認識を深める。 人権的な視点を大切に授業創造・授業改善の取組を推進する。				
	生徒の実態把握と生徒支援の充実	生徒が経済的理由で中途退学しないように事務室等と連携して経済的な支援に努める。 課題のある生徒・保護者に対する相談・支援体制を充実させ、中途退学の防止に努める。				
	校内の特別支援教育の取組の充実	特別支援教育に関わる職員研修を充実させ、学校全体で取り組む。 校内の関係委員会の定例化、生徒の実態把握に努めると共に関係機関との連携を強化する。				
広 報	生徒の主體的な活動による広報活動の充実	地域と連携した商品開発や学校での生徒取組を広報する。 HPを利用し、生徒の諸活動、部活動等の宣伝を生徒も行う。				
	受検者数の増加	中学校・塾訪問により、受検者数の増加を狙う。 中学校への説明会等で部活動・商品開発等、生徒の主體的な取組を広報し、受検者数の増加を狙う。				
	P T A活動の活性化	P T Aと連携をとりながら、活動を活発的に行う。 P T Aとの活動において新たな取組を模索し、活性化を図る。				
研 修	授業アンケート並びに授業公開月間を実施する。	授業アンケートを7・12月に実施し、生徒の実態把握と授業改善に活用する。 授業公開月間を設け、3人以上の授業参観を目指す。				
	校内研修の精選及び校外研修の参加推進を図る。	各分掌と連携し、時期に応じた研修計画や内容を計画して実施する。 校外研修の積極的な参加を促し、その内容を全職員に還元する。				
	課題研究発表会を充実させ、生徒の学習意識を高めさせる。	課題研究担当者会を計画的に実施し、担当者間で共通認識をもつ。 リハーサルを通して生徒主導の発表会になるよう努め、次年度につながるものにする。				